

つながり、共に支え合い、 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて

八頭町に暮らす約17,000人のうち、何らかの障がいがある方は約1,100人います。
 誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し、障がいについての理解を深め、お互いを
 尊重し支え合う「共生社会」をつくっていきましょう。

身障協会・育成会・家族会 合同体育大会を開催しました

6月1日（土）、八東総合運動公園を会場に、八頭町身体障害者福祉協会・八頭町心身障害児（者）保護育成会・八頭町家族会の3団体による合同体育大会が開催されました。

これまで体育大会は身障協会のみで行っていましたが、各団体の活動の活性化と障がい福祉に関する理解を進めることを目的に、今回初めての試みとなりました。身体・精神・知的の異なる障がい者団体が共同でこのような事業を行うのは県内でも例のない取り組みです。

当日は約80名が参加し、八頭町赤十字奉仕団や手話ボランティアの支援のもと、各団体の枠を越えて情報交換や交流を深めました。

初夏の風が吹くなか、参加者は、たけのこ、やまめ、西条柿など八頭町の特産品を名前にした全6チームに分かれ、ピン倒しリレー、スプーンリレー、パン食い競争、玉入れの全4競技を行いました。

競技中は、お互いを応援したり助け合ったりと各チームが団結して競技に挑み、笑顔あふれるイベントとなりました。



基石をすくって隣の人にスプーンで渡し、運んだ数を競います。
 ゴールまで落とさないよう慎重に！



「社協だより7月号」に身障協会、育成会、家族会の各会長インタビューを掲載しています。

東郡家地区まちづくり委員会と 小規模作業所施設たんぼぼとの交流

東郡家地区まちづくり委員会は、障がいのある方が地域に出かけて活動していくという社会参加を目的に、平成30年度から小規模作業所施設たんぼぼとの交流事業を行っています。



牛乳パック積み上げゲームや新聞島ゲームで親睦を深めました

6月5日（水）には第2回目の交流会が開催されました。当日は、鳥取大学地域学部の学生12名も加わり、お茶タイムでは、作業所で販売しているおかきやお菓子を食べてながら、親睦を深めました。最後に作業所の皆さんがトーンチャイムで「花は咲く」の演奏や歌を披露し、再会を約束して別れました。

また、作業所の方の工賃アップを図ることを目的として、平成31年4月には、作業所が取り組んでいる資源回収を一緒に行うこととし、まちづくり委員会の利用者の協力を得ながら、空き缶回収ボックスを設置しました。

今後は東郡家地区まちづくり委員会が作業所を訪問するなど、互に行き来して交流を続けることで、障がいへの理解を深めつつ、安心して暮らせるまちづくりの実現を目指していきます。



アルミ缶回収事業にご協力をお願いします